

であった。恰も外はうらかな春、桜花爛漫の春、先生のだ
い好きな春であった。

のこのこと教室にはいつていらっしやった先生は、壇の上
に上って椅子に腰をおろされた。しばらくは窓外の景色に目
をやられていた。

「いい季節ですね」

「皆さんはどんな本を読んでいますか」

「シェクスピアを十以上読んだひと？」

「エミールの開巻第一に何とありますか？」

などといったお言葉であった。

そして若いときに一生懸命に勉強をしておかなければなら
ないと論じて下さった。時には時事問題、ときには詩のはな
し、音楽のはなし絵のはなし、と御専門の教育学は言うに及
ばず、こうした一般教養のおはなしや芸術の世界にも私共の
眼を開いて下さったのが先生であった。いつも楽しそうに熱
心にお話をして下さった先生、私たちは、つい、先生を
「エンジョーイ先生」と綽名してしまつた。

先生は、ほんとうに人生をエンジョーイして逝かれたので
ある。
(お茶の水女子大附属幼稚園教諭)

倉橋惣三先生を

追悼す

岸 辺 福 雄

× 日本幼稚園教育が盛んならんとする今日先生を喪つた事
は、実に国家の大損失であります。噫。

× 先生が東大の心理学部を卒業せられましたお若い時から別
懇に願つた。と申すよりも教えられたのであります。左様指
を折りますと、五十年位以前の古い話であります。

× それより保育学につき、玩具につき絵本について親しく指
導を受けたのであります。それ故に、指導を受けた方は沢山
ありましようが、私のように五十年にわたって親しく教わつ
たり懇意につきあつて戴いた人は少ないでしょう。それ丈け

先生を失った今日は限りなく寂しく心弱さをおぼえるのであります。

× 孔子の弟子で巫聖と称された顔回が、若くて死にました時に、孔子は『学を好み、怒をうつさず、あやまちを再びせぜず不幸短命にして死す、今やすなはちなし』と追悼されて居ますが、倉橋先生は七十二。敢て短命ではありませんけれども、日本の幼稚園教育の漸く盛んならんとする今日、先生の逝去せられました事は、まさしく短命と申上げてよいと信ずるのであります。

× 日本の幼稚園教育のためには太陽を失ったも同然、さても寂しい。これよりは、月光によって幼稚園教育を旺盛にするのです。が早く太陽を仰ぎたいの念願や切なる次第であります。其念願の叶う日もまいりましょうが、老生は己に八十三余命幾ばくもなし、さても寂莫の感を深くします。

× 思い出しますと、お茶の水高等師範中川校長時代に、全国幼稚園保姆大会を東京で開かれた。大仕事でありましたが、大成功された。口利きのボス肌の人がありましたな、兎や覺文句を付けたものです。併し、三十代の倉橋先生は、当らざさわらず、纏められて大会も無事完了したなど、其手腕の容

易でない事を知ったのです。

× 其時の事です。其大会に岡山県の教育課長で東大出身の某君が、「幼稚園教育に一言話したいと思って態々上京して来たが、此の会衆の發言者の低級なるに失望した」と申して、憤然として立ち帰った事を知って居る私は、其次第を倉橋先生に話すと、実は僕も失望した、殊に女の發言者が少なくて一知半解のおじいさん達が、人も自分も解らない事を得意になつて、多弁を弄されたのはもてあました。と直話された事もあった。

× 全国保育大会と申しても、日本には頑として合流してくれない地方もあつたらしい。しかし、説かずうらまず、万事其儘で大成功をなさつた事は穩かな腕の方であつた。

× 研究、殊に兒童心理については絶えず、研究されて居ました事は当然であります。が、皇后陛下に、兒童学を進講なさつた時の準備のための研究もさる事ながら、敬服したのであります。先生が増々自信を高められたのは、斯様なチャンスも亦大なりでありましたでしょう。

× 講演は上手でした。あせらず、よどまず、其の上所々にウ

イトを用いられて、ニッコリとなさるゝなど、其道の堂に昇り、室に入ったものであったでしょう。或る講演家が倉橋君の次ぎに講演する事はお断わりだ。実にうまいから、僕なんかまずくて最初から聴衆に逃げられて了うと話して居ました事も覚えて居ます。上手でしたな。それで大きな舞台では『童話』は話されなかつた。或る時、なぜなさらないかと伺うと、それは君の領分だよと、私の肩をたたいてニッコリ、それでいて、私の童話集の批評は深刻なものでありました。

×
アノ童話集は、息つきと思われる処に二三字分、多い所は一行も文字のない白行の処がある。アソコは息をつく所だ。又『と』と接続する所に、とを上においたり『と』を下においたりしてある。とのおき所で話の呼吸を異にせねばならぬ。実に用意周到だと、著者すら恐縮するような詳評を加えられて居た。著者としての私は汗顔千万であった。

×
文章は、専門家ではなかつたが、実にうまかつた。文章家ならざる文章家であつた。『幼児の教育』所載の『子供讚歌』の如きは、其白眉のものでありましよう。常に敬読したのでありましたが、一冊に纏められて居るようですが、広くおすすめします。御辺に先生の幼児のうま味がにじみ出て居ます。

×
倉橋先生の趣味は広かつたでありましようが、殊に文楽の人形芝居はお好きであつた。時々私は私も横好きの為に、新橋演舞場に引越興行がありますと、のぞきましたが、或る時は先生と奥様とがお帰りの道で、一緒になりますと、君も文楽党だから、態々ご苦労さま、僕も今度は三度目だよと、頭を抱え奥様を顧みて笑つて居られた。其場所が歌舞伎座の前でありました。奥様もご記憶でありましよう、思い出して昔なつかしい。

×
倉橋先生もドイツのフレイベルのお墓参りをなさいました事と存じますが、先生の碑文に『ここは子供の生命の終焉の地』とあります。どうぞ倉橋先生のお墓も左様な銘を彫り込んだ、立派なお石碑が立てて戴きたいのです。(五月十日)